

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成23年6月16日(2011.6.16)

【公表番号】特表2010-527917(P2010-527917A)

【公表日】平成22年8月19日(2010.8.19)

【年通号数】公開・登録公報2010-033

【出願番号】特願2010-506715(P2010-506715)

【国際特許分類】

A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/00	(2006.01)
A 6 1 P	17/06	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	27/02	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	21/00	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)
G 0 1 N	33/50	(2006.01)
G 0 1 N	33/53	(2006.01)
C 1 2 Q	1/68	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	5/14	(2006.01)
A 6 1 P	19/02	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	13/12	(2006.01)
A 6 1 P	37/06	(2006.01)
C 1 2 N	15/09	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	39/395	F
A 6 1 K	39/395	U
A 6 1 P	43/00	1 1 1
A 6 1 P	17/00	
A 6 1 P	17/06	
A 6 1 P	9/00	
A 6 1 P	27/02	
A 6 1 P	1/02	
A 6 1 P	21/00	
G 0 1 N	33/15	Z
G 0 1 N	33/50	Z
G 0 1 N	33/53	D
C 1 2 Q	1/68	A
A 6 1 P	3/10	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	25/00	
A 6 1 P	5/14	

A 6 1 P 19/02
A 6 1 P 29/00 1 0 1
A 6 1 P 13/12
A 6 1 P 37/06
C 1 2 N 15/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成23年4月25日(2011.4.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

IFN に結合し、その活性を調節する治療剤の候補として患者を同定する方法であって

、該患者に由来するサンプル中のIFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールの存在又は非存在を検出することを含み、ここで、該IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールはIFI44、IFI6、SAMD9L、GBP1、OAS1、BIRC4BP、SRGAP2及びRSAD2の発現又は活性の上方調節を含み、

IFN に誘導されるPDマーカー発現プロフィールの存在の検出が、IFN に結合し、その活性を調節する治療剤の候補として該患者を同定する、

前記方法。

【請求項2】

前記患者が、狼瘡、特発性炎症性筋炎、シェーグレン症候群、血管炎、サルコイドーシス、乾癬、皮膚筋炎、多発性筋炎、封入体筋炎及び慢性関節リウマチから選択される障害を有すると診断された、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記障害が狼瘡である、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記治療剤が小分子又は生物学的薬剤である、請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記生物学的薬剤が抗体である、請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記抗体がMEDI-545である、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記発現又は活性の上方調節が、1個以上の前記遺伝子の発現の少なくとも2倍の増加を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項8】

前記発現又は活性の上方調節が、1個以上の前記遺伝子の発現の少なくとも3倍の増加を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項9】

前記発現又は活性の上方調節が、1個以上の前記遺伝子のmRNAレベルの増加を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項10】

前記発現又は活性の上方調節が、1個以上の前記遺伝子のタンパク質レベルの増加を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項11】

前記発現又は活性の上方調節が、1個以上の前記遺伝子から発現されたタンパク質の酵

素活性の増加を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 2】

前記サンプルが全血である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 1 3】

IFN レベルの増加に関連する障害を有すると患者を診断する方法であって、該患者に由来するサンプル中の IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールの存在又は非存在を検出することを含み、ここで、該 IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールは IFI44、IFI16、SAMD9L、GBP1、OAS1、BIRC4BP、SRGAP2 及び RSAD2 の発現又は活性の上方調節を含み、

IFN により誘導されるPDマーカー発現プロフィールの存在の検出が、IFN レベルの増加と関連する障害を有すると該患者を同定する、

前記方法。

【請求項 1 4】

前記障害が狼瘡、特発性炎症性筋炎、シェーグレン症候群、血管炎、サルコイドーシス、乾癬、皮膚筋炎、多発性筋炎、封入体筋炎及び慢性関節リウマチから選択される、請求項 1 3 に記載の方法。

【請求項 1 5】

前記障害が狼瘡である、請求項 1 4 に記載の方法。

【請求項 1 6】

IFN により媒介される障害を治療するための候補治療剤を同定する方法であって、IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールを含む細胞と、薬剤とを接触させること、ここで、該 IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールは IFI44、IFI16、SAMD9L、GBP1、OAS1、BIRC4BP、SRGAP2 及び RSAD2 の発現又は活性の上方調節を含み、及び、

該細胞の IFN により誘導されるPDマーカー発現プロフィールの変化の存在又は非存在を検出すること、
を含み、

前記 IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールの遺伝子の上方調節の減少を含む変化の存在が、前記薬剤が候補治療剤であることを示す、

前記方法。

【請求項 1 7】

前記細胞が IFN レベルの増加と関連する障害を有する患者から取得されたものである、請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 8】

前記細胞が、前記 IFN 誘導性PDマーカー発現プロフィールを誘導するように IFN で処理された細胞である、請求項 1 6 に記載の方法。

【請求項 1 9】

請求項 1 に記載の遺伝子のいずれか1つの発現を特異的に検出するポリヌクレオチドを含むプローブのセット。

【請求項 2 0】

請求項 1 9 に記載のプローブのセットのいずれかを含むキット。